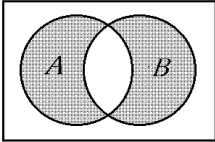
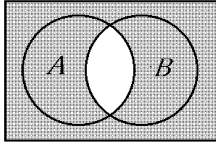
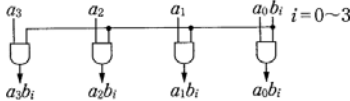


『論理回路』(コンピュータサイエンス教科書シリーズ 5) 正誤表  
 (本書に下記のような誤りがありました。訂正し、謹んでお詫び申し上げます。編集部)

ページ	箇所	誤	正
14	図2.8(f)	$\overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$ 	$\overline{A \cdot B} = \overline{A} + \overline{B}$ 
22	上から12行目	右辺 = $\overline{A} \cdot f(0, B, C) + \dots$	右辺 = $0 \cdot f(0, B, C) + \dots$
	下から6行目	右辺 = $1 \cdot f(A, 0, C) + 0 \cdot f(A, 1, C) = \dots$	右辺 = $0 \cdot f(A, 0, C) + 1 \cdot f(A, 1, C) = \dots$
25	上から14行目	$= 0 \cdot B + \overline{A} \cdot 0 \dots \dots \dots$ 否定則公理より	$= 0 \cdot \overline{B} + \overline{A} \cdot 0 \dots \dots \dots$ 否定則公理より
73	最下行	$\dots$ ある。 $\overline{S}_n, \overline{R}_n$ が、 $\dots$	$\dots$ ある。 $\overline{S}_D, \overline{R}_D$ が、 $\dots$
80	図6.1	(過去の入力を示すカッコが「 $x \sim x_6 \dots$ 」まで)	過去の入力を示すカッコは「 $x_{-1} \sim x_{-6} \dots$ 」まで
89	最下行	$\dots$ である。1011の場合は、	$\dots$ である。1101の場合は、
99	図8.2(b)	(省略)	 <p>(<math>a_2 b_i</math>と<math>a_1 b_i</math>の右側の入力の線に接続していることを示す黒点を追加する)</p>
117	下から5行目	$\dots$ に示すようなワイヤードOR回路が $\dots$	$\dots$ に示すようなワイヤードOR回路が $\dots$
147	解図3.4	(省略)	(1行1列目の斜め線の右上に「 $CD$ 」, 左下に「 $AB$ 」を入れる。解図3.1や解図3.2と同じようにする。)
148	解図3.5		
	解図3.6		